

# 沼田の貧困データ

データ収集グループ

山田茂富 北原君子 関信司 高山敏也

貧困に関する制度・支援について、  
具体的なこと(データ・情報)が分からないことが多い

どんなデータを知りたいか？ 子どもの状況・母子家庭の貧困・  
先進国の状況・生涯の支援制度…

基本的な制度を下調べ(年齢別)

子ども (～18歳)  
中間層 (19～64歳)  
高齢者 (65歳以上)

子ども+中間層=ひとり親家庭

実態を  
知りたい

**アンケートの実施**

平成28年度群馬県ひとり親世帯調査を  
基盤に、調査項目等を追加

# アンケートの概要

- ◆目的      ひとり親世帯の皆様の生活の実態やニーズを把握し、誰もが暮らしやすい地域にしていくために必要なこと、出来ることを考えていくための資料とするほか、沼田市にもその状況や意見を伝えていきたいと考えています。
- ◆対象      無料学習塾・子ども食堂利用のひとり親      11名
- ◆方法
  - ・ 無料学習塾、子ども食堂の際に配付封筒に入れたものをボックスで回収
  - ・ 回答は無記名



# アンケートの内容

## ◆質問内容

- 本人及び世帯の状況
- 就労・経済の状況
- 生活の状況
- 子どもの状況
- 心配事や悩みの状況
- 支援・福祉制度の利用状況



## ◆独自内容

- 居住住宅の状況
- 親子のふれあいの状況
- 貯蓄の状況
- 一日の労働時間の状況
- 小中高校生の学習支援の状況
- 高大学の学習支援の状況
- 食の支援の状況



# アンケート結果から

## (1) 家族構成

- ①親の年齢：殆どが30～40歳代
- ②子どもの学齢：小・中・高校生を中心に
- ③同居家族：父母(子の祖父母)・兄弟姉妹(子の叔父叔母)・なし ほぼ同比率

## (2) 経済生活

- ①世帯生活経済状況  
:生活が非常に苦しいと回答した世帯は40歳以上・子どもが中高年生で同居家族がない世帯が多い。

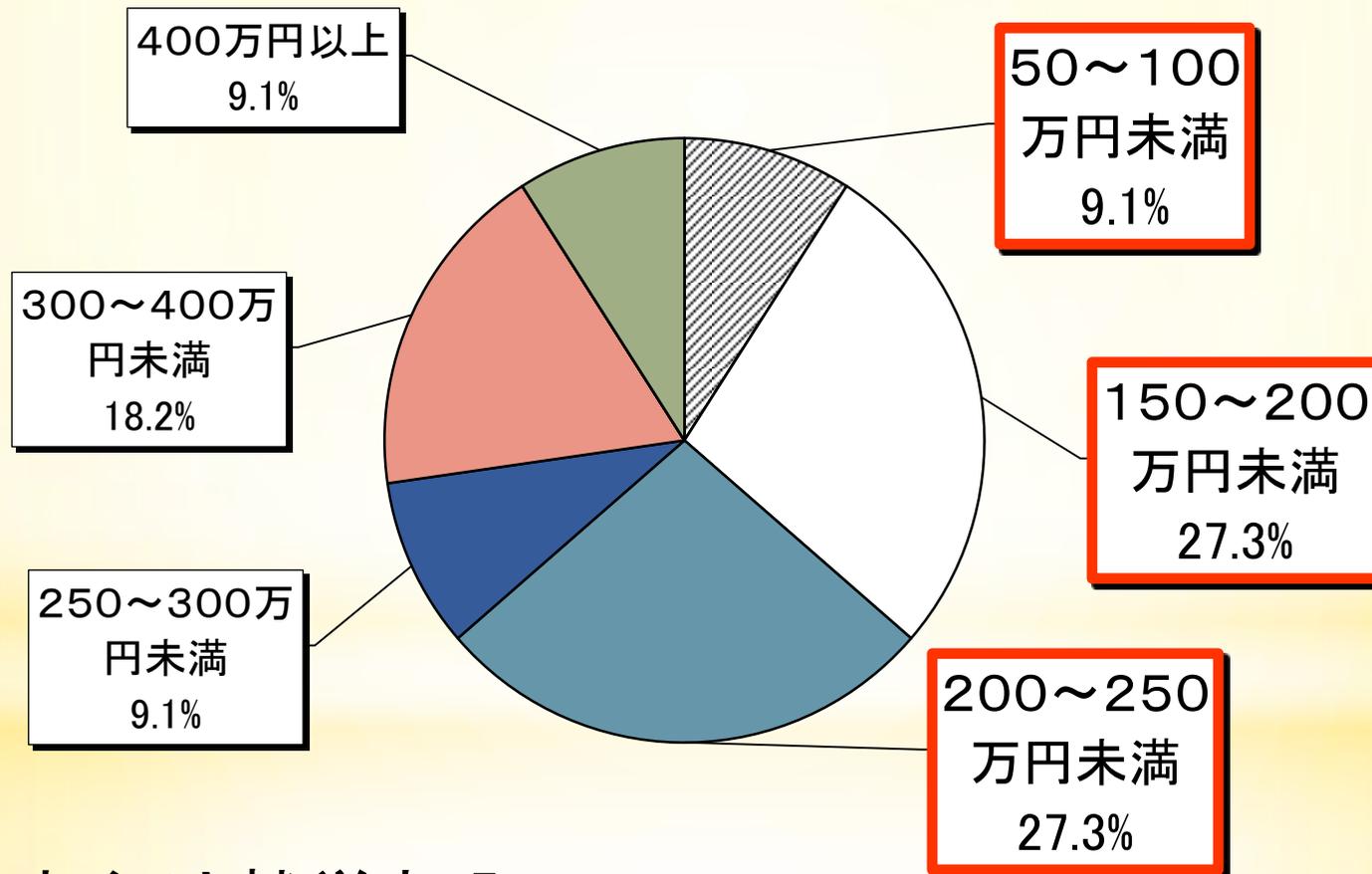


**\***親の有り難さや依存度が高い

# アンケート結果から

## ②年間世帯収入と生計の中心

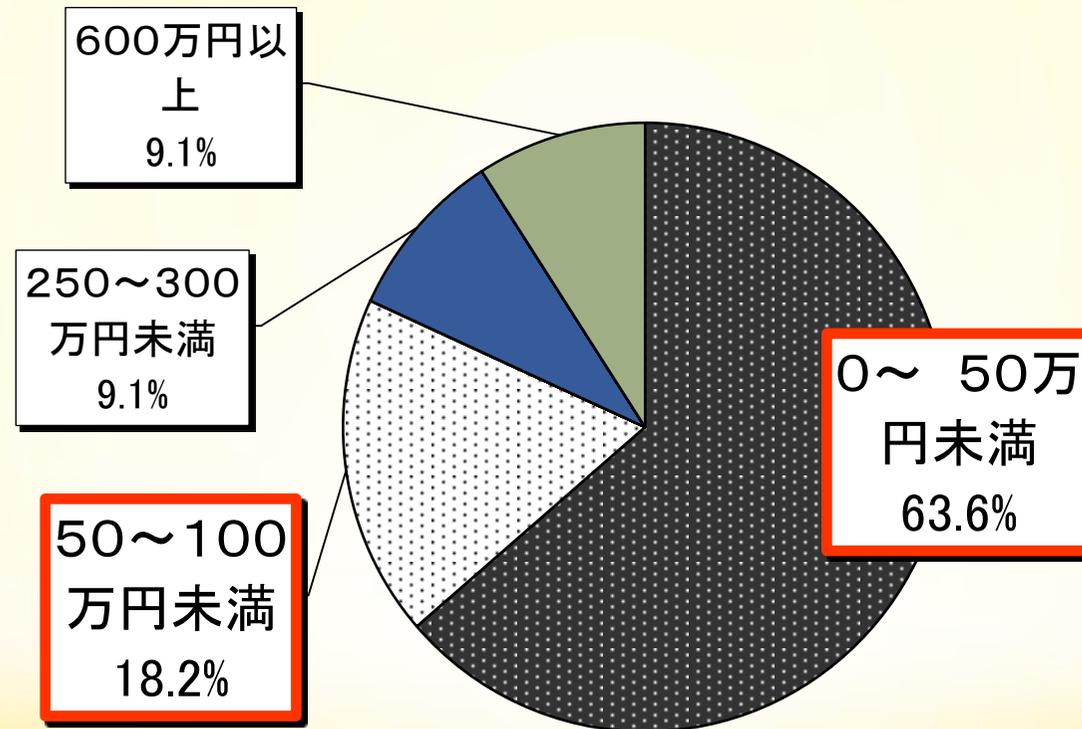
: 250万円未満 63.7%、県調査70.1%と同一の傾向



**\*** 生計の中心は就労収入

手当(児童扶養・就学援助)の生計に占める大きさが明らか

③ひとり親世帯の貯蓄額



\*急な出費への対応は困難、生活に余裕がない。

\*国民生活基礎調査(H28) 母子世帯

貯蓄なし37.6%、50万円未満14.4%、200万円未満64.6%

## アンケート結果から

### ④生活・就労状況

:「苦しいが何とかできる」と「苦しい」が81.8%を占める。

**\*** 県調査でも82.3%とほぼ同一

: 仕事は全員がしている。

勤務形態は正規雇用・臨時雇用で91%

就労時間8時間以上が54.5%を占めている。



### ⑤子どもの養育費

:「取決めはしたが全く受け取っていない」18.2%、「取決め自体行っておらず全く受け取っていない」45.5%で県調査とほぼ同一

**\*** 不払いが多く、取決めも少ない。受領に対する諦めなど子どもの養育費に関する意識の低さがみられる。

**\*** これが放置されており社会や行政の責任も問われるだろう。

# アンケート結果から



## <子ども1>

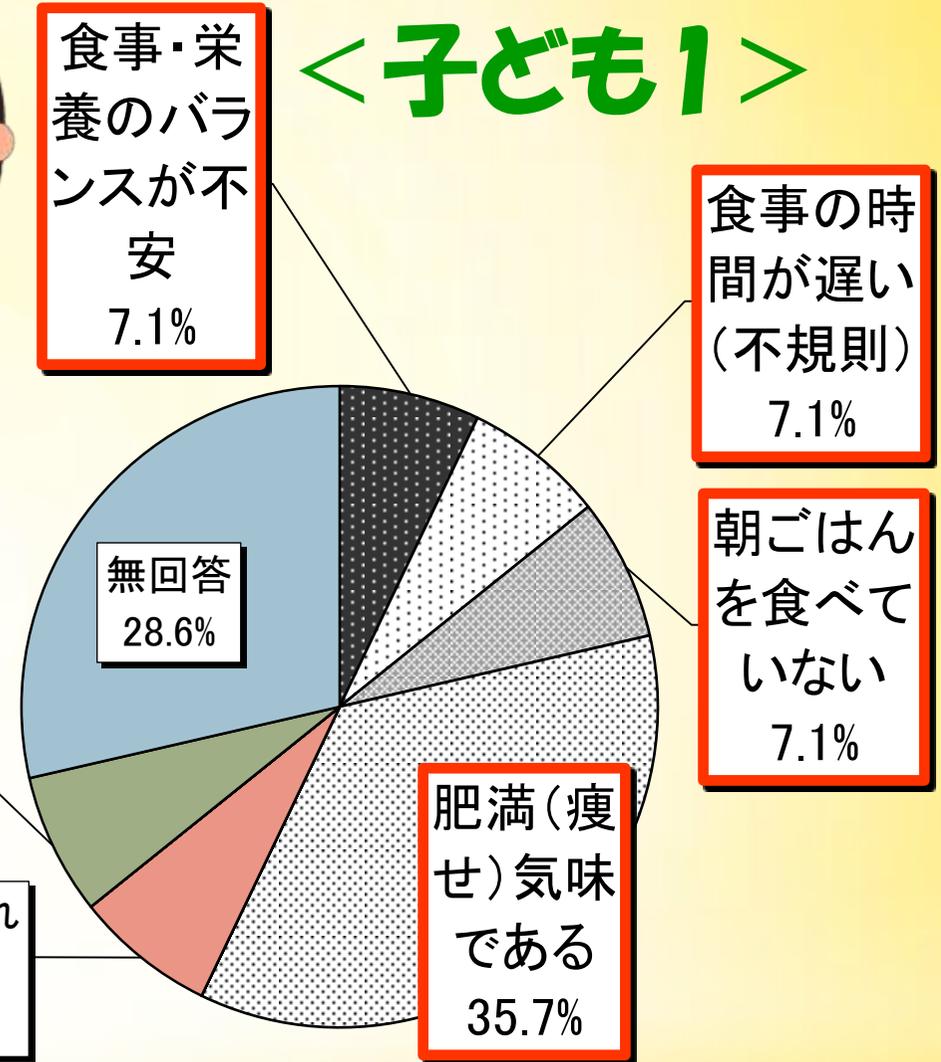
### (1) 子どもの身体的健康面

#### ① 子どもの食事や生活

: 子どもの体格・栄養バランスに不安をもっている。

☆子ども食堂:

利用者は子どもの喜びや栄養バランス、ボリュームなど好感をもっている。



＊食事の改善は考えているが、優先せざるを得ない出費項目があり、食費など不十分で「子ども食堂」や「フードバンク」は重要な支援

＊「子ども食堂」や「フードバンク」は広報活動を充実し、関係者の拡大を図ると共に公的支援の充実を促進していくことが必要



## (2) 子どもの精神的健康面

①小学生の放課後：自宅で子どもだけで過ごすことが多い。

＊県調査では学童保育利用が34.1%で最も多い。

②子ども以外の同居家族：親子だけの家族が多い。

③土日祝日：子どもと一緒に過ごせない親が半数以上

④帰宅時間：午後7～9時や深夜に及ぶ場合もある。

⑤無料学習塾等の学習支援や奨学金制度の充実を全員が希望

＊生活状況が苦しく労働時間が増加し、親子団らんや土日祝日のふれあいも不十分な状況で負のスパイラルに陥っている。

＊親子だけの家庭が多く、親子の心身の安定に向けて子育てや生活を支援する制度とその早急な実施を望んでいる。

＊地域や社会のひとり親への理解

(1) 経済的に困ったことや悩み・不安

① 経済的に困ったこと悩んだこと

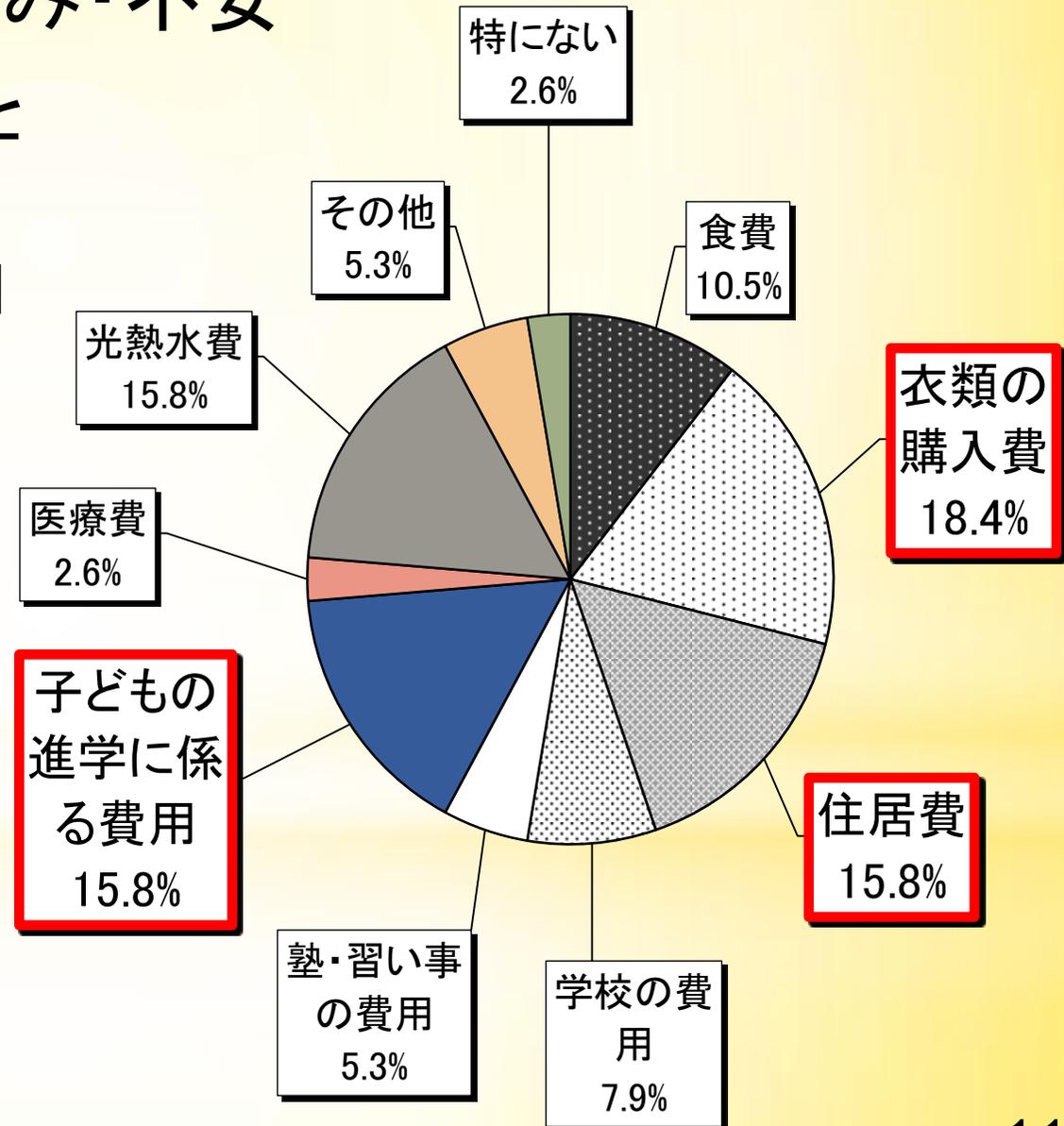
「衣類購入費」「住宅費」  
「子どもの進学に係る費用」  
への不安・悩みが多い

\* 公営住宅の借用(収入別  
家賃制度)利用

\* 住宅費の助成制度の検討

\* 衣類のリユースの促進

\* 進学経費に係る助成制度  
の充実



②不安や悩み・心配事

: 子どもの学習・進路が最大の心配事、親が病気になったときの子どもの世話、親の家事と育児の両立

＊家事代行支援など親の不調を補う制度の充実

介護ヘルパーのような

＊学習・教育や今後の進路について多面的な支援が必要

③不安や悩み・心配事の相談先

: 友人・知人や同じ境遇の人への相談が多い。

＊受容的な対応を望んでいると思われる。

＊カウンセリングマインドで気楽に話せる・集うことも可能・いつでも相談できる(電話でもいい)・公的な場所があったら…。



## (2) 学習や進路への支援

### ① 小中学生の学習支援

＊無料や安価な学習塾の設置、通塾経費への助成

### ② 高校生：奨学金は必須条件。親は大いに期待

＊奨学金の返済免除制度の充実

### ③ 大学生（専門学校生）

：教育費の確保は奨学金や学資ローンが頼り

＊返済不要や無利子貸付を行う公的制度の充実



# ■参考 <フランスの子育て事情、日本と比べてみました>



■合計特殊出生率 フランス1.96人 日本1.44人 (2016年)

■教育への公的支出対GDP比(OECD2012年)

1位ノルウエー—6.5% 13位フランス4.9% 32位日本3.5%

(OECD平均4.7%)

■教育費の公費負担割合 (2012年)

就学前教育 フランス94.1% 日本45.0% (OECD平均81.7%)

初等中等教育 フランス92.2% 日本90.4% ( 91.2%)

高等教育 フランス83.1% 日本35.3% ( 70.0%)



**フランスは幼稚園から大学(国立)まで授業料は無料**

■フランスの新生児の約6割は婚外子

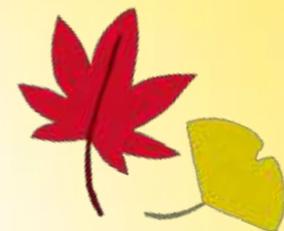
結婚を選ぶのは半数、Pacs(民事連帯契約)により共同生活、出産



**子育て支援制度の充実、**

**子どもは社会で育てるといふ社会環境・文化の高さ**

# ひとり親家庭への諸支援の充実



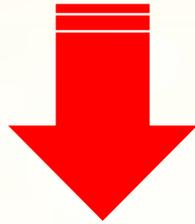
- \* ひとり親子育て手当の充実(児童扶養手当・就学援助の見直し)
- \* 養育費(支払確保促進指導 等)
- \* 食費支援(子ども食堂・フードバンク 等)
- \* 住宅費支援(公営住宅借用促進支援・民間住宅借用補助金 等)
- \* 奨学金制度の拡充(返済不要、無利子貸付 等)
- \* ひとり親の税金制度の見直し(控除 等)
- \* 子育て支援の充実(保育・学童・通塾・習い事 等)
- \* 家事支援の充実(家事代行支援 等)
- \* ひとり親の労働環境の整備(勤務時間・休暇・賃金 等)
- \* ひとり親の心身充実を図る相談活動の充実
- \* 現在実施の支援制度の周知



# 今後の課題

貧困問題は、語られ始めたばかり・・・

まずは、沼田市の実態を知ることが必要では？



そのためにも、アンケート調査の実施を！



\*調査項目の付加

(支援制度の認知・利用状況・理由、従事している職種 など)

\*調査年齢階層の拡大(高齢者・若者 など)

\*関係機関・団体との連携による実施